



PTAだより

<2号>

2021年3月発行

岡山県立倉敷南高等学校

45期生のみなさん ご卒業おめでとうございます

保護者の皆様におかれましては、PTA活動に際して3年間の多大なるご協力をいただきありがとうございました。

中でも高校最後の年には世界中が一変してしまうという、誰もが想像も経験もしたことのない年となりました。

全国的な休校からはじまり、校内外では大会や行事の中止・縮小で思い描いた高校生活ではなくなったこと、また、大学入試の変更もありお子様はもちろん、保護者の皆様、先生方におかれましては大変なご苦勞をされたことと存じます。

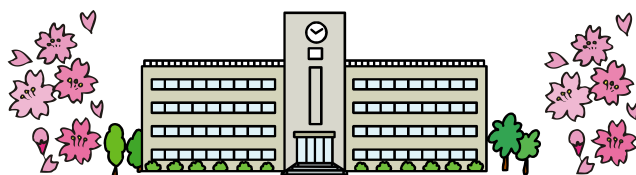
倉敷南高校でも葦岡祭では保護者の校内参加は叶いませんでしたが、先生方のご配慮ご尽力によって動画の配信という新しい取り組みで参加することができました。

秋晴れの空の下、体育祭での3年生の応援合戦の様子は激変した世の中においても変わらぬ子ども達の強さを感じとり深く感銘いたしました。

この3年間の学びを糧にこれからのご活躍をお祈り申し上げます。

45期のみなさんは学校という場は離れられますが、今後とも本校の活動へのご支援をいただきますようよろしくお願いいたします。

PTA副会長 46期 梶原紀子



コサージュづくりにご参加くださりありがとうございました！

卒業式に卒業生の胸元を飾るコサージュを2月6日(土)に作りました。

今年は3教室での分散開催となり、作製後のお茶会や意見交換はありませんでしたが、多数のご参加をいただきありがとうございました。

ひとつひとつに願いのこめられた素敵なコサージュが完成しました。

PTA副会長 46期 梶原紀子



第38回岡山県幼小中高PTA連合会連絡協議会研修大会 参加報告

PTA副会長 47期 秋元 秀美

2020年11月17日に岡山県PTA指導者研修会に参加しました。岡山県教育委員会からPTA活動と人権教育の推進についての説明や「親育ち応援学習プログラム」(通称「親プロ」)などの活動の紹介がありました。また、特定非営利活動法人「青少年自立援助センター定住外国人支援事業部」の田中宝紀氏より「海外にルーツを持つ子ども支援の現場から見えた、共生社会日本の未来」と題して講演がありました。

近年、日本で働く外国人労働者が増加しており、それとともに外国人労働者の子供たちの教育を取り巻く問題が顕在化しつつあるそうです。言葉の壁によって学校の授業がわからず不登校になったり、進学を諦めたりするケースがあることを知りました。

自治体によって支援に差があり、不就学の子どもたちは全国で推計2万人だそうです。保護者が外国籍であったり、子どもの国籍が外国籍であったりする場合、子どもの就学義務がないという制度の壁も不就学の原因だそうです。これまで、外国人労働者の数が少なかったため、こうした問題はあまり知られていませんでしたが、講演者の田中氏は、このような問題に取り組むため日本語指導や学習の補助や相談などの支援活動を行なっていってほしいそうです。

講演を聞き、現在日本にやってくる外国人労働者は特定年数を経れば日本国籍を得られやすく、今後海外ルーツの人が増えてくると思いました。実際に海外にルーツを持つ人の割合は2040年には6.5%(15人に1人)、2065年には12.0%(8人に1人)となります。中東やアフリカから多くの移民を受け入れているヨーロッパ各国が抱えている、移民の子どもの問題と重なっているようにも感じました。大切なことは日本人の多様性への理解や寛容さのみならず、今後私たちは海外にルーツを持つ人々へもしっかりと目を向け、ともに共生社会を創っていかねばならないのだと実感しました。



【講演 田中宝紀氏】

その他、「コロナ禍におけるPTA活動の対応と課題」について、他校のPTAの方とグループワークを行いました。コロナ禍以降、ほとんどの行事が中止されたり規模縮小により実施されたりしたという情報を共有しました。それら行事の実施について、学校、PTA、保護者の3者間のコミュニケーションが課題であるとの内容でした。コロナ禍は誰もが初めて経験したことであり、この経験を学びとし、3者のコミュニケーションを今まで以上に密にとっていく重要性を感じました。